

第1回流山市生きづらさ包括支援の在り方懇談会 議事要旨

(日時) 令和4年7月26日(火) 9:00~11:30

(場所) 流山市役所第1・第2委員会室

(出席) 勝本 正實 委員、今成 貴聖 委員、中田 健士 委員、
関根 徹 委員、田中 由実 委員

(欠席) 田熊 立 委員、石川 涉 委員

(事務局) 流山市 伊原健康福祉部長、同部宮澤次長、他同部職員4名

議事案件

- 自己紹介
- 座長・副座長選出(座長は勝本委員、副座長は今成委員)
- 趣旨説明(事務局による要綱及び重層的支援体制整備事業の説明)
- 次回懇談会開催予定日(概ね2か月に一度の頻度で開催を予定。次回開催日は、本日欠席の委員に確認の上、改めて決定)

懇談会における主な意見

- 重層化支援事業は素晴らしい事業であると考えている。この事業を作っていくにあたり、先進市が行ってきたことを学んだ上で、流山市版の事業を作ればよいのではないかと考える。
- 今ある流山市の社会資源をどういう風に組み上げていくのかが大事になってくると思う。
- ネットワークを作ってマッチングしていくような取組を、どう分野を超え広がりをもった取組みにできるかというのがポイントになると思う。
- どうやって制度の隙間をなくしていくのかが大事。支援のプロや職業的に福祉に従事している人たちがどれだけ、自分たちの業務の幅を広げられるかがポイント。それぞれ対象の枠を広げる中で隙間が無くなっていくものだと思う。
- 既存の資源を整理して、それをどう組み合わせられるか、どう自分たちの枠組みを広げられるか、これにより自ずと現場のレベルが上がり制度の隙間が無くなっていくということだと思う。
- 地域づくりは予防の概念である。ここに集まれば、人とつながれる、楽しくなるという感覚で、将来の困りごとを減らせるという場所となる。よって地域づくりがとても重要であると考えている。